

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：13904

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00294

研究課題名(和文)「思想としての俳諧史」構築のための基礎的研究—支考と蝶夢を軸に—

研究課題名(英文) Basic study for the construction of a 'history of haikai as an idea' - with a focus on the Shikou and Chomu.

研究代表者

中森 康之 (NAKAMORI, Yasuyuki)

豊橋技術科学大学・総合教育院・教授

研究者番号：80320604

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまでの「芭蕉・蕪村・一茶を頂点とする発句の文学的価値による俳諧史」を、「思想としての俳諧史」へと再構築するための基礎研究である。具体的には、芭蕉『笈の小文』『おくのほそ道』序文、支考『葛の松原』の古池句誕生物語、『俳諧十論』、其角・土芳・惟然・許六・去来・野坡ら蕉門俳人の俳論俳話、蝶夢の俳論には、「思想としての俳諧(心の俳諧)」が共有されていることを明らかとした。またそれは「芭蕉流表現原理」を核とするものであることを提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の最大の成果は、芭蕉や蕉門俳人に「思想としての俳諧」が共有されており、それは「芭蕉流」という概念で捉えることができることを提示したことによって、「芭蕉流」という視点からの芭蕉研究、蕉門研究の動きが起こったことである。また、支考(特に『俳諧十論』)や蝶夢が再評価されたことも本研究の成果である。これは、本研究課題の目的である、「芭蕉・蕪村・一茶を頂点とする発句の文学的価値による俳諧史」を、「思想としての俳諧史」へと再構築し、「俳諧とは、人間にとってどのような意味と価値を持つ言語行為なのか」という俳諧の本質を解明するための大きな契機となるものである。

研究成果の概要(英文)：This study is a basic study for reconstructing the existing "History of Haikai based on the literary value of Haiku by Basho, Buson, and Issa at the top" into a "History of Haikai as an idea". Specifically, it became clear that "haikai as an idea (haikai of the heart)" is shared in Basho's "Oi no kobumi" and "Oku no Hosomichi" preface, the story of the birth of Huruieku in "Kuzu no Matsubara", "Haikai Juron", and the haikai essays of Disciples of Basho and Chomu. It also became clear that 'Haikai as an idea' had at its core the 'Basho-style principle of expression'.

研究分野：日本文学

キーワード：近世俳諧 芭蕉 支考 蝶夢 蕉門 思想

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの俳諧研究の主流

これまでの俳諧研究が描いてきた近世俳諧史は、芭蕉・蕪村・一茶を頂点とした、発句中心の俳諧史だった。これは、本来多様性をもっていた俳諧が、時代が下るにつれて発句中心となり、近代以降、俳句という形式に集約されたことと軌を一にする。もちろん『おくのほそ道』など、発句以外の作品も評価されたし、3人以外にも評価された俳人はいる。しかし全体としては、やはり俳人の評価は、芭蕉・蕪村・一茶を最高到達点とした発句の文学的価値によってなされてきたと言ってよい。ここでいう文学的価値とは、子規などの近代俳人によって規定された「近代的俳句観」によるものである。

したがって例えば、芭蕉晩年の弟子である支考は、蕉風普及に尽力し、後の時代に大きな影響を与えたにも関わらず、発句の評価の低さゆえ、長年評価は低いままである。また、近世中期の蕉風復興運動を牽引した蝶夢も、発句集が刊行されず、発句の評価が定まらなかったため、長らく俳諧研究から忘れ去られた存在となっていた。

(2) これまでの俳諧研究の問題点

これまでの近世俳諧史は、近世中後期に爆発的に増えた俳人とその作品のほとんどを評価しなかった。彼らの発句を、文学的価値が低く、低俗であるとして切り捨てたのである。

しかしそのために、見えなくなったものがある。それは、「人々にとって俳諧をやることの意味は何か」ということだ。多くの人がそこに集まったということは、それだけの魅力と価値があったからである。これまでの俳諧研究は、出来上がった作品の文学的価値にのみ焦点を当てた結果、「俳諧とは、人間にとってどのような意味と価値を持つ言語行為(精神活動)なのか」という俳諧の本質を描き出すことが出来なかったのである。

それだけではない。これまでの俳諧研究で評価されてきた芭蕉も蕪村も一茶も、実は「近代的俳句観」によって捉えられた側面にだけ焦点が当てられたに過ぎない。とすれば、私たちはこれまで、芭蕉・蕪村・一茶をさえ、誤解していたかも知れないのである。その証拠に、例えば芭蕉が、発句に限定されない俳諧の豊かな可能性を生涯追究し続けたことも、これまでの俳諧研究はうまく描き出せてはいないのである。

(3) 俳諧研究における私のこれまでの研究成果

私はこれまで、「俳諧とは何か」という俳諧の本質を探究してきた。この問題においても、芭蕉が最も重要であることは間違いない。そこで発句に囚われない視点から、芭蕉の俳諧観とその継承展開について、調査研究を続けてきた。その手がかりとしたのは、俳人で言えば支考と蝶夢、資料で言えば俳論、俳話、俳諧伝書といった、これまでの俳諧研究では重視されなかった俳人と資料である。それにより、以下のことを明らかにした。

芭蕉にとって発句はあくまで俳諧の一部に過ぎず、芭蕉自身は、もっと広く俳諧の可能性を追究していたこと。

それを俳諧史上初めて看破し、本質的体系的に俳諧を論じたのは、支考であったこと。

支考は芭蕉の俳諧を「心の俳諧」であると看破し、それが日常生活において誰にでも実践可能な「思想」であること(「思想としての俳諧」)を説いたこと。

それにより、俳諧人口が爆発的に増大したこと。

支考の説いた「思想としての俳諧」を最も本質的に受け継いだのは、蝶夢であったこと。

蝶夢は近世中期の蕉風復興運動において、俳諧の心を「まことの心」と規定して、全国の俳人たちを導いたこと。

芭蕉 支考 蝶夢と継承された「俳諧の心」が、後の時代にも大きく影響したこと。

上記の成果により、現在の学会では、支考と蝶夢をきちんと研究し、当時の時代に即して「俳諧」概念を捉え直す必要があるという気運が高まりつつある。

2. 研究の目的

本研究は、これまでの「芭蕉・蕪村・一茶を頂点とする発句の文学的価値による俳諧史」を、「思想としての俳諧史」へと再構築し、「俳諧とは、人間にとってどのような意味と価値を持つ言語行為なのか」という俳諧の本質を明らかにするための基礎研究である。

具体的には下記を目的とする。

(1) 支考の『俳諧十論』を全訳注することによって、支考が看破した俳諧の本質である「思想としての俳諧」の意味を解明すること。

(2) それを、後世にどのような形で継承展開されたのかを、具体的資料によって解明すること。

さらには、これにより、これまで重視されなかった支考と蝶夢を俳諧史上に正當に位置付け、俳諧を「文芸」の一形式ではなく人間の生き方に関わる「思想」と捉える新しい視点を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、主として文献調査、分析、考察である。これまでの研究で調査・入手済の文献(複写、電子データを含む)に加え、新たに調査・入手した文献をもとに分析、考察を行う。特にこれまであまり重視されてこなかった俳諧伝書や俳論を活用する。

(1) 『俳諧十論』の全訳注

支考自身による講義録、近世期の『俳諧十論』注釈書(批判書)、近代以降の解説書を踏まえ、申請者のこれまでの研究成果をもとに行う。

(2) 「思想としての俳諧」の意味の解明

『俳諧十論』の解読と並行して、支考の他の俳論、蕉門の俳論の解読、分析を行う。また、芭蕉の作品(特に紀行文、俳論俳話)を「思想としての俳諧」という視点から分析する。

(3) 「思想としての俳諧」が後世へ与えた影響

蝶夢の全資料(特に俳論、俳文、書簡)を用い、蝶夢が重視した「心の俳諧」「まこと」と、芭蕉や支考の俳諧観との関係を分析する。

4. 研究成果

(1) 支考『葛の松原』から読み取れる芭蕉の俳諧本質論の解明

支考『葛の松原』における芭蕉古池句物語を解読し、それが芭蕉の俳諧本質論(思想)をよく理解したものであることを明らかにした。古池句は支考が「蕉風開眼の句」として喧伝し、世に広めたことは知られている。しかし、肝心の「蕉風開眼」の意味や、支考の古池句に関する解説は、これまで否定的に見られてきた。また『葛の松原』も支考が芭蕉の意を無視して勝手に強行出版したとする説が有力だった。

そこで、まず『葛の松原』強行出版説には根拠がなく、芭蕉のある程度の同意があったこと、出版後芭蕉がその内容を高く評価していたことを論証した。その上で、『葛の松原』における古池句に関する支考の文章を解読した。その結果、古池句誕生物語はでたらめな「空想」ではなく、入門直後の幻住庵同居中を始め芭蕉との対話を見事にまとめたものであることを明らかにした。古池句誕生物語は、その頃の芭蕉の最大の関心事を深く受け取り、それが古池句にあてはまることを支考が見抜き、解説したのものであったのである。そして、支考が喧伝したのは「蕉風開眼」ではなく「芭蕉流開眼」だったことも明らかにした。要するに、『葛の松原』古池句物語は、芭蕉の俳諧の本質が心の俳諧であることを深く理解した支考によって古池句が再評価されたものであり、芭蕉自身もそれを深く納得したのものであったのである。

以上のことは、本研究課題の新視点である「思想としての俳諧史」という視点を置いたからこそ可能になったものである。その意味で、誰もが知り、関心を持つ古池句とその誕生物語の新しい解釈を提示し得たことは、「思想としての俳諧史」構築の重要性と意義を示す契機となったと考える。

これらについては、「『葛の松原』強行出版説には根拠がない—検証八亀説」(「連歌俳諧研究」140号 2021年)、「芭蕉古池句「蕉風開眼」の真意」(2020年度日本近世文学会秋季大会)、「古池や蛙飛込む水のおとはなぜ名句なのか? ~支考が伝えた蕉風俳諧の真髓~」(奥の細道むすびの地記念館(大垣市)第29回企画展「蕉風俳諧の伝道師 支考」関連講座 2020年)にて公開し、その後の研究を進める契機となった。

(2) 芭蕉と蕉門における「思想としての俳諧」の共有の解明と「芭蕉流」という概念の提示

芭蕉は「芭蕉流」と呼ぶべき独自の俳諧思想(俳諧表現論)を持っており、それが支考をはじめ其角や土芳などの門人にも共有されていたことを明らかにした。

芭蕉から支考へと継承され、支考が展開した芭蕉俳諧の本質が「心の俳諧」であったことは(1)で示したが、それと並行して、芭蕉の『笈の小文』と『おくのほそ道』の序文の解読を行った結果、そこには支考が『葛の松原』古池句誕生物語で提示した俳諧本質論が読み取れることが明らかとなった。また、其角、土芳、去来、惟然、許六、野坡等他の蕉門俳人の俳論俳話の研究を進めた結果、これまで対極的な存在だと考えられてきた其角をはじめ、蕉門俳人の俳諧観と支考俳論には共通点も多く、彼らの中で俳諧の本質として「思想としての俳諧」=「心の俳諧」が共有されていたことを明らかにした。またそれを「芭蕉流」という概念で捉えられることを提示した。つまり、芭蕉と蕉門俳人たちの間には「芭蕉流」という俳諧本質論が共有されていたのである。

以上については、「「蕉風」の眩暈—「芭蕉流」という視点から見えるもの—」(「日本文学研究ジャーナル」18号 2021年)、「思想としての俳諧、あるいは俳の精神(芭蕉歿後の二潮流再考・芭蕉の正統とは何か—文学から思想へ、作品から行為へ—)」(第450回俳文学会東京研究例会2019年)、『笈の小文』『おくのほそ道』序文考(2022年度日本近世文学会春季大会)、「金子はな『惟然・支考の「軽み」 芭蕉俳諧の受容と展開』が提示したこと」(第459回俳文学会東京研究例会 第32回テーマ研究「「かるみ」の新展開」2022年)、「芭蕉俳諧を広めた二人—支考・野坡」(江東区芭蕉記念館 冬季文学講習会「芭蕉の弟子たち—人と作品」2023年)にて公開した。

(3) 『俳諧十論』の全訳注

これまで誤解にさらされてきた支考の名著『俳諧十論』の全訳注を行った。これにより、支考が芭蕉から教えられ独自に展開した俳諧本質論が「思想としての俳諧」=「心の俳諧」であったこと

と、さらにその具体的内容が明らかとなった。これについては、研究者だけでなく一般の方にも理解してもらえるかたちで「獅子吼」誌に2020年から毎月連載を開始した。

(4)「思想としての俳諧」の後世への影響 蝶夢

蝶夢資料を、「思想としての俳諧」「芭蕉流」「心の俳諧」という視点から分析した。これにより、芭蕉から支考へと継承された俳諧本質論が、蝶夢に継承されていることを、具体的に明らかにした。これについては、上記の論文・研究発表のほか、『蝶夢全集 続』(共編 2022年 和泉書院)を刊行した。

以上が本研究課題の主な成果であるが、これにより、「思想としての俳諧史」は、芭蕉が発明し確立した「芭蕉流」表現原理を核として描けることが明らかとなった。

この成果は、学会において相応のインパクトを与えた。具体的には、「芭蕉流」という概念を使用した芭蕉研究、蕉門俳人の研究がいくつも現れたことである。

そこで本研究課題をさらに発展させるべく、「芭蕉流」という概念を取り入れた研究者6名を連携研究者とした研究課題「芭蕉流表現原理とその史的意義の解明―「思想としての俳諧史」構築のための基盤研究―」(基盤研究(C) 研究代表者 課題番号 23K00296)を2023年度から開始した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1009
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(十四)「中国篇」意識－徹底解読！支考『俳諧十論』(32)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 10 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1008
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(十三)三ちょう図－徹底解読！支考『俳諧十論』(31)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1007
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(十二)俳諧の機変－徹底解読！支考『俳諧十論』(30)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1006
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(十一)釈氏に達磨ありて－徹底解読！支考『俳諧十論』(29)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 16 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1005
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(十)孔子に莊周ありてー徹底解説! 支考『俳諧十論』(28)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 20 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1004
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(九)実は虚をもてほどくー徹底解説! 支考『俳諧十論』(27)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1003
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(八)虚実のさばきー徹底解説! 支考『俳諧十論』(26)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1002
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(七)「滑稽」の注釈ー徹底解説! 支考『俳諧十論』(25)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1001
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(六)『奥義抄』－徹底解読! 支考『俳諧十論』(24)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 1000
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(五)『古今集』「俳諧歌」－徹底解読! 支考『俳諧十論』(23)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 150 - 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 999
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(四)『史記』「滑稽列伝」－徹底解読! 支考『俳諧十論』(22)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 998
2. 論文標題 「第一俳諧ノ伝」(三)虚実の自在－徹底解読! 支考『俳諧十論』(21)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 997
2. 論文標題 「第一 俳諧ノ伝」(二) 俳諧の「道」と「名」－徹底解説！支考『俳諧十論』(20)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 996
2. 論文標題 「第一 俳諧ノ伝」(一) プロローグ－徹底解説！支考『俳諧十論』(19)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 986
2. 論文標題 「序」(五) 『茶話禅』とは何か(3) 婆子焼庵－徹底解説！支考『俳諧十論』(9)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 18
2. 論文標題 「蕉風」の眩暈－「芭蕉流」という視点から見えるもの－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 9 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 987
2. 論文標題 「序」(六)『茶話禅』とは何か(4)－徹底解説！支考『俳諧十論』(10)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 988
2. 論文標題 「序」(七)－徹底解説！支考『俳諧十論』(11)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 989
2. 論文標題 「序」(八)－徹底解説！支考『俳諧十論』(12)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 990
2. 論文標題 「序」(九)『論語』は文学だ－徹底解説！支考『俳諧十論』(13)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 991
2. 論文標題 「序」(十)『維摩經』俳諧は日常にありー徹底解説! 支考『俳諧十論』(14)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 992
2. 論文標題 序(十一)「古翁は例のゆるし給はず」ー徹底解説! 支考『俳諧十論』(15)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 993
2. 論文標題 序(十二)「夏炉冬扇」ー徹底解説! 支考『俳諧十論』(16)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 994
2. 論文標題 序(十三)「無用の用」ー徹底解説! 支考『俳諧十論』(17)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 995
2. 論文標題 序(十四)世に伝える時が来たー徹底解説!支考『俳諧十論』(18)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 978
2. 論文標題 空前絶後の俳諧本質論ー徹底解説!支考『俳諧十論』(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 979
2. 論文標題 『俳諧十論』を絶賛した人たちー徹底解説!支考『俳諧十論』(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 980
2. 論文標題 『俳諧十論』解説用資料紹介ー徹底解説!支考『俳諧十論』(3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 981
2. 論文標題 『俳諧十論』の全体構成と主題－徹底解説！支考『俳諧十論』（4）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 982
2. 論文標題 「序」（一）－徹底解説！支考『俳諧十論』（5）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 140
2. 論文標題 『葛の松原』強行出版説には根拠がない - 検証八竜説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 連歌俳諧研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 983
2. 論文標題 「序」（二）「あるとし」－徹底解説！支考『俳諧十論』（6）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 894
2. 論文標題 「序」(三)『茶話禅』とは何か(1)－徹底解読！支考『俳諧十論』(7)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 895
2. 論文標題 「序」(四)『茶話禅』とは何か(2)投子一碗の茶－徹底解読！支考『俳諧十論』(8)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 896
2. 論文標題 「序」(五)『茶話禅』とは何か(3)婆子焼庵－徹底解読！支考『俳諧十論』(9)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中森康之	4. 巻 967
2. 論文標題 「蕉風開眼」の真意	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 獅子吼	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中森康之
2. 発表標題 『笈の小文』『おくのほそ道』序文考
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中森康之
2. 発表標題 芭蕉古池句「蕉風開眼」の真意
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 田中道雄、田坂英俊、玉城司、中森康之、伊藤善隆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 928
3. 書名 蝶夢全集 続	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------